

会議での要望により購入した機械



※集材してきた材を残地せず「そのまま造材」する事が可能



※導入後、接地圧が高く危険であることが会議で判明したので、履帯を500→600mmと変更(入替)し、接地圧を調整しました。

【会議から判明した課題】

- 山林傾斜が急で造材時にスリップが生じ、スムーズに材が引き上がらない。
- 急傾斜山林では集材木を残地できない
(残地させると集材木が滑落する)
- 集材と造材を同時に行くと、造材効率のよいプロセッサに「待ち」が生じる。
- 巻き取りワイヤーやワイヤースリングが重く玉掛け者の労働負担が大きい
- 作業道脇の間伐対象木をできる限り機械で伐倒する方が効率上がる。



【会議で企画した機械の購入】

- 造材の「待ち」をなくす及び
残地させることなく造材→**集材と造材を1台で**
- スムーズに材を引き上げながら造材→**ストローク式ハーベスタ**
- 作業道から伐倒できる範囲の拡大→**テンションアーム**
- 巻き取りワイヤー等が重い→**繊維ロープ式ウインチ**
※摩擦に強い**繊維ロープの開発**